

- 鹿沼市は県内から生産量の約1/3を占めているが、生産者・栽培面積が減少傾向であり、**産地の維持発展が課題となっている。**
- このため普及指導センターでは、**新品種「ゆめみどり」、新技術「ウォーターカーテン」の展示ほを設置し、品種特性、温度管理を明確にし、省力化と単収向上に高い効果があることを明らかにした。**
- その結果、周年出荷に適した品種選定、省力化・単収向上のための設備投資意識が高まり、**企業的経営体が2戸誕生した。**

具体的な成果

1 新品種・新技術導入面積の増加

- 「ゆめみどり」の品種特性が評価され、「ウォーターカーテン」の省力化、生育改善効果が明らかとなった。

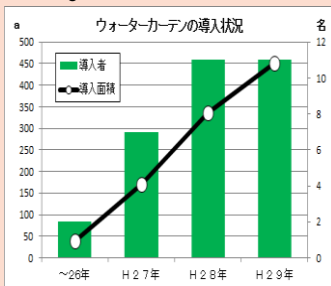
(H27→H29)

①「ゆめみどり」導入面積

0a → 81a

②「ウォーターカーテン」導入面積

171a → 452a



2 鹿沼にら部の意識変化

- 「ゆめみどり」導入により、周年安定出荷に適した品種選定を行う意識が向上。

- 「ウォーターカーテン」導入効果により、若手生産者を中心に「省力化・単収向上のための設備投資は重要」との意識向上



3 企業的にら経営体の登場

- 「ウォーターカーテン」効果を実感した若手生産者数名が3年連続で「ウォーターカーテン」導入を継続しており、雇用労力を活用し、販売額5000万円を超える企業的な経営体が2戸誕生

4 新規栽培者の確保

- 新規栽培希望者に対し、技術習得のため、研修受入事例ができた。平成29年度1名が研修を実施。

普及指導員の活動

平成27年

- 新品種、新技術導入検討を行うため、**J A・生産部会・研究組織と共通認識を持ち、一体となった技術支援を行った。**
- 県単補助事業を活用し、鹿沼市と連携した施設整備を行った。

平成27～28年

- 新品種「ゆめみどり」の**実証ほの設置、検討会を行い、品種特性把握、生産者の評価を確認。**
- 新技術「ウォーターカーテン」の**実証ほの設置、導入者の温度計測、聞き取りを行い、従来の温度管理から転換。**

平成28～29年

- 「ゆめみどり」「ウォーターカーテン」導入者との情報交換会、事例の共有化を図り、**未導入者への導入意欲促進**

平成29年

- 新規栽培者確保に向け、部会、J A、市等と連携し、**研修制度の構築に向け調整に努めた。**

普及指導員だからできたこと

・ **新品種、新技術導入を提案し、地域のにら生産拡大に結びつけることができた。**

・ 実証ほデータ、地域農業者の温度管理及び生育調査データを蓄積し、**単収向上、省力化に高い効果があることを示し、品種選定、施設整備に対する意識変化を促した。**

新たな園芸生産の戦略的拡大

新品種・新技術の導入よるにら産地の躍進

上都賀農業振興事務所経営普及部

上都賀地域の地域戦略 「上都賀地域の園芸を支える人材の確保・育成」

普及指導計画の戦略課題名 「技術の高度化と土地利用型野菜導入による魅力ある野菜産地の育成」

【キーワード：ニラ、ゆめみどり、ウォーターカーテン、産地育成 活動期間：平成27年（継続中）】

抄録

・新品種「ゆめみどり」及び、新技術「ウォーターカーテン」の優位性を明らかにするとともに、関係機関と連携して推進を行った結果、3ヶ年で「ゆめみどり」17名、81a、「ウォーターカーテン」11名、451.5aが新たに導入されました。

・新品種・新技術導入により、単収向上や省力化が重要視されるようになり、品種選定や施設整備に対する意識の変化が醸成され、若手生産者を中心に、生産拡大への意欲の高まりが見られるようになっていきます。

1 取組の背景・ねらい

にらは鹿沼市の代表的品目で、県内生産量の約1/3を占めていますが、生産者・栽培面積が減少を続けており、販売額も伸び悩んでいます。今後も高齢化により生産者の減少が続くと見込まれることから、新品種・新技術の導入を起爆剤に、産地の維持発展を進めています。

2 活動対象

(1) 対象名

上都賀農業協同組合鹿沼にら部、鹿沼にら栽培研究会

(2) 対象の概要

平成29年度、上都賀農業協同組合にら部138名、うち、鹿沼にら栽培研究会員30名

3 活動の内容

(1) 指導・支援の体制

上都賀地域農業振興計画や普及指導計画の戦略課題の中心に位置づけ、最重要課題として取り組みました。また、JA・生産部会・研究会組織と共通認識を持って、一体となった技術支援を行うとともに、施設導入に当たっては鹿沼市とも連携し、県単補助事業を積極的に活用し、推進にあたりました。

(2) 活動経過

ア 新品種・新技術の優位性と問題点、改善方策を明確化しました

新品種「ゆめみどり」、新技術「ウォーターカーテン」について、生育や温度調査及び個別巡回を濃密に実施し、状況把握と改善策の提示を行いました。「ゆめみどり」は連続収穫に適し、調整が容易といった品種の優位性が明らかになり、保温開始時期の徹底と、他品種との使い分けが定着しつつあります。「ウォーターカーテン」は、導入者全員の管理温度の計測や聞き取りを踏まえ、従来の温度管理からの転換を図り、省力化と単収向上に高い効果があることを明らかにしました。

イ 新品種・新技術の導入について、関係機関団体と共通認識を醸成しました

新品種「ゆめみどり」に対する生産者の期待は高く、鹿沼にら部及び鹿沼にら栽培研究会の試作品種に位置づけられ、部会が種子代を負担して検討を行いました。新技術「ウォーターカーテン」は省力化と単収向上に高い効果があることが実証できたため、講習会や現地検討会、個別巡回時にPRするとともに、先行導入者の口コミを活用して、導入拡大を図りました。施設導入に際しては部会事業として、JA・鹿沼市の協力のもと、県単補助事業を積極的に活用し、導入負担軽減を図りました。

ウ 研究会組織との連携を強化しました

「ゆめみどり」の試験栽培を鹿沼に栽培研究会の事業に取り入れ、試作状況や出荷実績、栽培上の課題の調査と取りまとめを行いました。研究会員のうち「ウォーターカーテン」導入者とは情報交換会を開催し、管理技術のさらなる高度化と事例の共有、新たな先進技術導入、他産地の優良事例調査を実施し、栽培意欲をさらに高めるよう誘導しました。

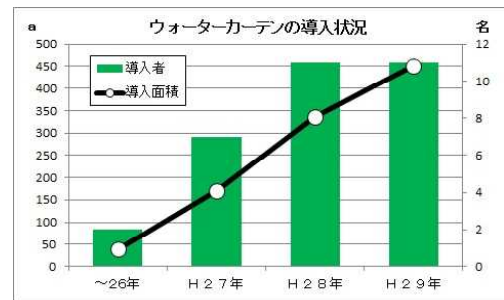
4 活動の成果

(1) 鹿沼にら部の意識の変化

現在、鹿沼にら部では5品種が作付けされていますが、品種特性や保温開始時期に応じた品種選定が曖昧でした。「ゆめみどり」の試作によって、「ゆめみどり」の優位性はもちろんですが、他品種も含め、周年安定出荷に適した品種選定を行う意識が高まりました。また、にらは販売価格が比較的安いというのに価格変動が大きいので、施設に経費をかけずに栽培するという意識が強くなりました。しかし、若手生産者を中心とした「ウォーターカーテン」効果の盛り上がりを受け、『省力化・単収向上のための設備投資は重要』という意識が芽生えました。

(2) 新品種・新技術の導入面積の増加

「ゆめみどり」の品種特性が評価され、試作者が増加し、平成29年度は17名、81aが導入されました。「ウォーターカーテン」は省力効果及び厳寒期の生育改善効果が高いことが明らかになり、平成27～29年の3年で11名、451.5aが導入されました。



(3) 企業的にら経営の登場

「ウォーターカーテン」効果を実感した若手生産者数名が3年連続で「ウォーターカーテン」導入を継続しており、雇用労力を活用し、販売額5000万円を超える企業的な経営体が2戸実現しました。

5 今後の課題と方向

(1) 「ゆめみどり」「ウォーターカーテン」のさらなる導入と、新たな技術導入の可能性

「ゆめみどり」の一般栽培を視野に、品種の位置づけと解決すべき課題を明確化し、作付け拡大を推進します。「ウォーターカーテン」は管理技術の精度向上を図り、さらなる普及拡大を図ります。平成29年より新たな技術として、「改良型灌水チューブ」と「炭酸ガス施用」の試作を開始しており、「ゆめみどり」「ウォーターカーテン」を核に、さらなる管理技術の高度化を推進します。

(2) 長期的な視野に立った、にら産地の方向性の提示

高齢化による生産者減少は今後も続くため、現在、関係機関が連携して上都賀地方のにら新規栽培者確保に向けた制度構築を進めています。さらに、鹿沼の若手生産者を中心に、企業的なにら生産者を増やし、生産量の維持を図るとともに、にらを魅力ある品目に飛躍させ、新規栽培者確保の足掛かりとしていきます。



ウォーターカーテンでの「ゆめみどり」栽培状況



改良型灌水チューブ導入に向けた現地検討会